

環境活動レポート

2016

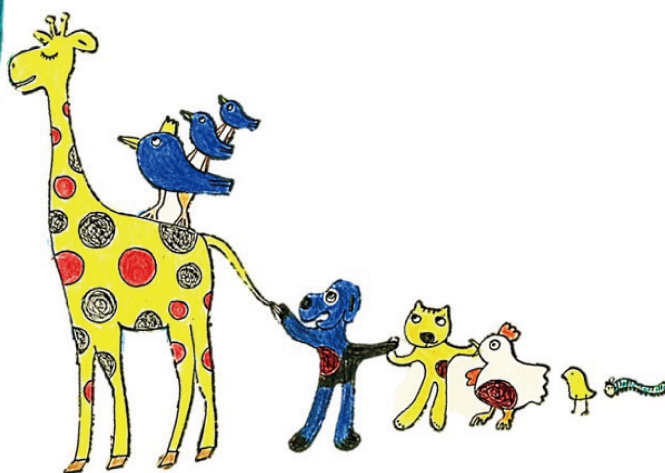


絵画の紹介

<タイトル>

りんごの香りに誘われて

りんごの香りに誘われて、
動物達が連なって歩いている様子



障がいのある方が描いた絵です。
(所属 / 夢のかげら舎)



平成29年10月発行

第13版：平成28年3月～平成29年2月実績



(株)グリーンロジスティクス
e-style camp



環境方針

基本理念

株式会社 グリーンロジスティクスは、廃棄物の中間処理・収集運搬業務を通じて、人と環境が調和し、共存できる循環型社会への構築に向けての地域環境保全に努めます。

行動指針

1. 環境負荷の低減を目指し、重要項目として下記の項目に重点を置き、計画的・継続的・効果的な CO2 削減活動を行います。
 - ① 収集運搬車両及び重機等による燃料使用量の削減。
 - ② 産業廃棄物リサイクル率の向上。
 - ③ 水光熱使用量の削減。
 - ④ バイオディーゼル燃料(BDF)の普及。
 - ⑤ 再生可能エネルギーの生産・供給。
 - ⑥ グリーン商品の積極的購入及び資源の有効活用。
2. 全社員が、地域社会における役割と責任を認識し、地域融和活動に努めます。
 - ① 第一に私達は、地域社会の一員であることを自覚します。そして、地域に対して「役立ちたい」というもっとも高い価値観を共有します。
 - ② 地域の企業・環境団体や行政との連携を深く図り、地域が参加できる環境保全活動を企画・実践します。そして、知識・情報を共有し環境ネットワークづくりに努め、地域社会にも広く発信します。
3. 環境関連法規・条例・要綱及び全ての要求事項を遵守します。
4. あらゆる人に環境レポートを公開し、地域環境コミュニケーションの形成のための協力と理解を求めます。

制定日 平成 17 年 5 月 1 日
最終改訂日 平成 27 年 5 月 1 日

株式会社 グリーンロジスティクス
代表取締役 岩崎 浩



事業概要

◆事業名称及び代表者名

株式会社 グリーンロジスティクス 代表取締役 岩崎 浩

◆所在地

- ◇管理事務所・選別棟 熊本県菊池郡大津町杉水 2506 番地
- ◇圧縮・破碎棟 熊本県菊池郡大津町杉水 2509 番地 1

◆資本金

1000 万円

◆設立

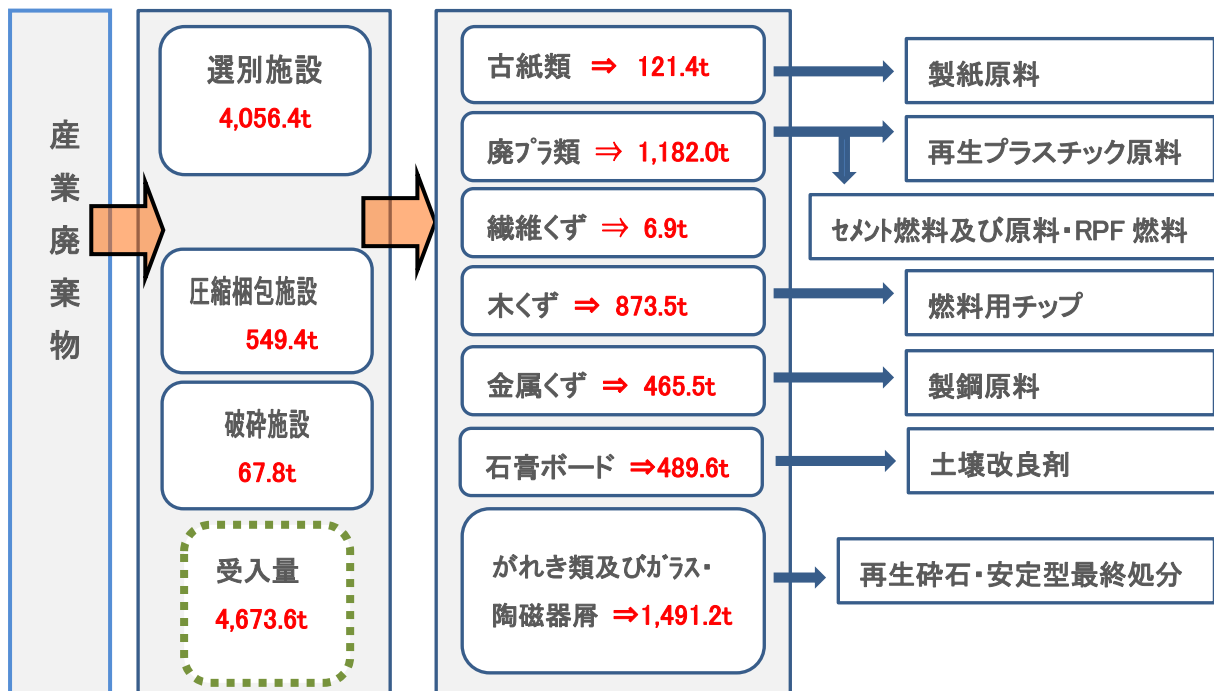
平成 4 年 12 月 21 日

◆事業内容

- ◇産業廃棄物の中間処理(選別・破碎・圧縮)及び収集運搬
- ◇一般廃棄物の収集運搬
- ◇有価物(古紙・再生樹脂)の回収・加工・販売

中間処理施設の処理フローとマテリアルバランス

有価売却及び処理委託 ⇒ 4,630.1t





事業概要 2

◆許可内容

NO	許可の種類	自治体	許可番号	許可年月日	有効年月日
1	一般廃棄物収集運搬業	大津町	第 10 号	H28.4.1	H30.3.31
2		菊池市	菊市環許第 8 号	H29.4.1	H29.3.31
3		合志市	合志市令第 10 号	H27.4.1	H29.3.31
4		菊陽町	指令環第 632 号	H28.4.1	H30.3.31
5		熊本市	休止中		
6		益城町	第 14-8 号	H28.4.1	H30.3.31
7		西原村	5012 号	H27.4.1	H29.3.31
8	産業廃棄物収集運搬業	熊本県	第 04300008464 号	H27.9.15	H34.9.8
9	産業廃棄物処分業		第 04320008464 号	H28.11.25	H35.9.29

※2013.5.16 に熊本県より「優良産廃処理業者」に認定を受けました。

◆産業廃棄物処分業(熊本県)

◇事業の全体計画

排出事業所から排出された産業廃棄物を搬入し、計量後、処理前保管場所にて保管する。その後、機械選別ライン・破砕機・圧縮梱包機にて、それぞれ処理を行う。

その後は、処理後保管場所に保管し、有償売却、又は処理委託する。

◇処分する産業廃棄物の種類等

(選別) 廃プラスチック類 81t/月・木くず 65t/月・金属くず 3t/月・がれき類 10t/月・紙くず 3t/月・繊維くず 0.5t/月・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 10t/月・ゴムくず 0.1t/月

(破砕・圧縮梱包) 廃プラスチック類 50t/月・金属くず 3t/月・紙くず 5t/月・繊維くず 0.5t/月

◆産業廃棄物収集運搬業(熊本県)

◇事業の全体計画

排出事業者から収集運搬の委託を受けた産業廃棄物の自社中間処理施設をはじめ、他の処理施設に運搬する。

◇収集運搬する産業廃棄物の種類等

- ① 廃プラスチック類・木くず・金属くず・紙くず・繊維くず・ゴムくず ⇒ 225t/月
- ② ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず ⇒ 20t/月
- ③ がれき類 ⇒ 40t/月
- ④ 動植物性残渣 45t/月
- ⑤ 燃え殻・ばいじん 1t/月



事業概要^{♡3}

◆施設等の状況

◇運搬車両の種類と台数

- ・8tクラム車 1 台・4tフックロール車 2 台・4tユニック車 1 台・3tユニック車 1 台
- ・2tダンプ車 1 台・4tパッカー車 8 台・2tパッカー車 1 台・軽トラック 2 台
- 合計 17 台**

◆施設の種類と処理する廃棄物の種類、処理能力他

◇選別施設

- ・処理する産業廃棄物の種類

廃プラスチック類・木屑・金属屑・がれき類・紙屑・繊維屑・ガラス屑・コンクリート屑及び陶磁器屑・ゴム屑

- ・処理能力 15t/日(8h)
- ・処理方式 手選別及び機械選別ライン

◇破碎施設

- ・処理する産業廃棄物の種類

廃プラスチック類

- ・処理能力 4.7t/日(8h)
- ・処理方式 破碎機

◇圧縮・梱包①施設

- ・処理する産業廃棄物の種類

廃プラスチック類・金属屑・紙屑・繊維屑

- ・処理能力 廃プラスチック類 41.5t/日・金属屑 88.5t/日・紙屑 63.4t/日・繊維屑 44.2t/日(8h)
- ・処理方式 圧縮梱包機

◇圧縮・梱包②施設

- ・処理する産業廃棄物の種類

廃プラスチック類・金属屑・紙屑

- ・処理能力 廃プラスチック類 3.4t/日・金属屑 10.8t/日・紙屑 2.9t/日(8h)
- ・処理方式 圧縮梱包機

◆会計年度及び環境年度

毎年3月1日から翌年2月末日

◆情報公開

- ◇(株)グリーンロジスティクス ホームページ ⇒ [http:// greenlogistics.co.jp/](http://greenlogistics.co.jp/)
- ◇産廃情報ネット情報開示システム ⇒ <http://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/>



事業概要 4

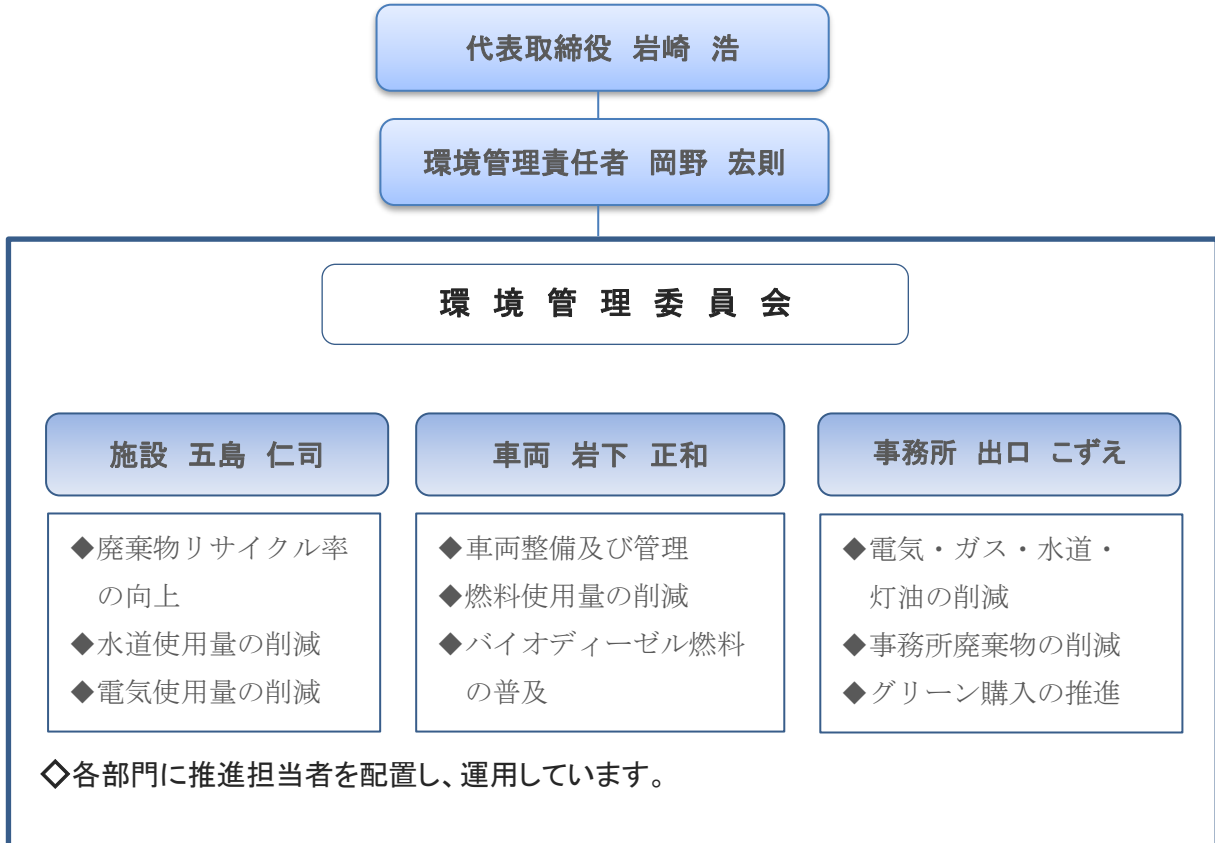
◆事業の規模

活動規模		単位	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
売上高		百万円	275	300	319	338	360	381	430
廃棄物 取扱量 (有価物含)	収集運搬	t	10,053	10,527	12,162	12,947	13,215	13,137	12,748
	中間処理	t	4,873	5,311	6,688	6,684	6,786	7,489	7,635
従業員数		人/年	21	22	26	27	30	33	35
敷地面積		m ²	4,999	4,999	4,999	4,999	4,999	4,999	4,999
車両台数		台	17	18	17	18	17	17	17



環境マネジメントシステム

エコアクション 21 組織図



☆環境管理責任者の連絡先 (096)293-0743



環境数値目標と実績及び評価



弊社の業務は、一般廃棄物の収集運搬、産業廃棄物の収集運搬及び中間処理（選別・圧縮・破砕）及び再生資源の加工・販売であり、環境目標を下表のように設定した。

- ◆①総エネルギー投入量及び⑤二酸化炭素排出量は、収集運搬車両及び重機の稼働による軽油の割合が高く、業務の量によって変動するため、売上百万円当りの量で環境目標を設定した。

（評価）熊本地震の影響により、災害廃棄物運搬車両の増車とその燃料使用量が全体の燃料使用量の約 22%を占める結果となり、軽油使用量を引き上げる結果となったため、目標の達成ができなかった。

今年度燃料使用量 111,856 ㍓のうち災害車両燃料使用量 24,377 ㍓

- ◆②購入電力及び⑥太陽光発電量は、前年と同様、購入電力との比較ができるよう太陽光発電量の目標を設定した。

（評価）太陽光発電量は前年度と比較すると 5%上回ったが、購入電力は、災害以降動力使用量が増加し続けたことにより、目標を達成できなかった。

- ◆事務所における⑧廃棄物排出量⑨グリーン購入は、従業員の増減があるため、昨年度より一人当たりの廃棄物排出量で環境目標を設定した。

（評価）従業員の増加があつたが、一人当たりの廃棄物排出量は、目標を達成できた。また、グリーン購入においても、目標を達成できた。

- ◆また、当社の業務は廃棄物の収集運搬及び中間処理業なので、中間処理業で取り扱う廃棄物に係る環境目標を、⑩リサイクル率で設定した。

（評価）熊本地震の影響により、前年度に比べ再資源化できないがれき類とガラス陶磁器屑が約 219t 増加した為に環境目標を達成できなかった。

	NO	項目	単位	H28 年度		評価	H29	H30	H31
				目標	実績		目標	目標	目標
イン プット	①	総エネルギー投入量	MJ/百万円	12,900	14,373	×	16,000	13,000	12,900
	②	購入電力	kwh	47,200	49,345	×	54,000	46,000	50,000
	③	化石燃料使用量	L	107,500	140,240	×	170,000	120,000	120,000
	④	水資源使用量	m ³	1,110	1,084	○	1,080	1,080	1,080
アウト プット	⑤	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /百万円	890	892	×	1,000	890	880
	⑥	太陽光発電量	kwh	87,800	91,956	○	91,000	91,000	91,000
	⑦	BDF 使用量	L	9,000	3,512	×	2,500	0	0
	⑧	廃棄物総排出量(事務所)	Kg/人	10	8.5	○	8.5	8.5	8.5
	⑨	グリーン購入(事務備品)	%	75.0	76.3	○	76.3	78.0	78.0
	⑩	リサイクル率(%)	%	78.0	75.7	×	75.0	75.0	78.0

電気の九州電力実排出係数 0.509 を採用

◆電力使用量の削減と太陽光発電

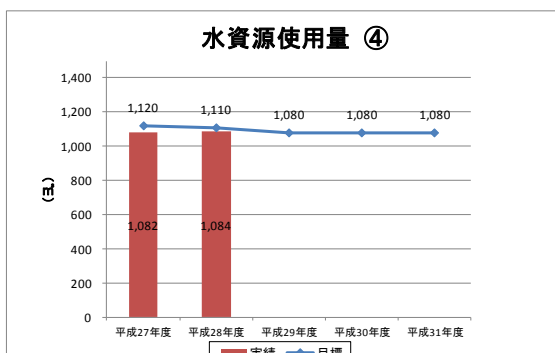
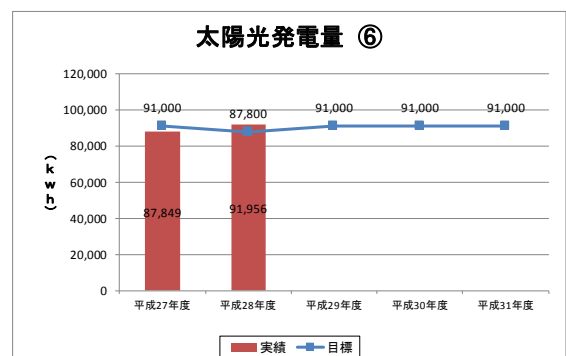
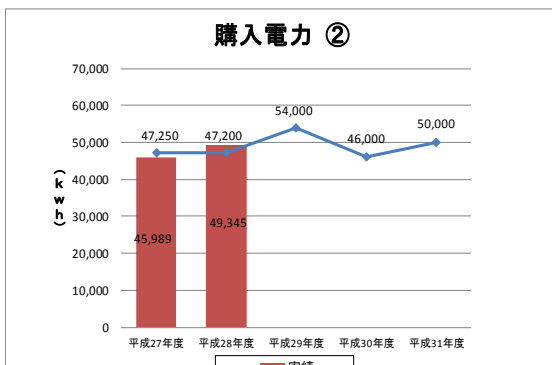
- ◇災害の影響により、取扱量が前年に対して 5.4%増加した為、機械選別ライン・圧縮機・破砕機・減容機の電力使用量が増加した。次年度は、更なる省電力による効果的な運転が必要である。(評価×)
- ◇事務所棟、選別棟、圧縮・破砕棟に設置した太陽光発電システム(84kw)とバイオディーゼル燃料を含めた再生可能エネルギーの生産量を高めていく。(評価○)

参考 今年度、電力使用量 49,345kwh に対し、太陽光発電量 91,956kwh

◆水資源投入量の削減

- ◇運搬車両の洗車使用量が主である為、前年同様節水効果などある洗車機の使用とホースにストッパーを付け、使用量を抑える。(評価○)次年度⇒継続的に行なう。
- ◇洗車場など水廻りの漏水点検及び補修の実施。(評価○)次年度⇒継続的に行なう。

評価基準(○・良く取り組んでいる △・取り組んでいる ×・全く取り組んでいない)





環境活動計画の取組み結果とその評価、次年度の取組み内容(施設)

◆リサイクル率の向上

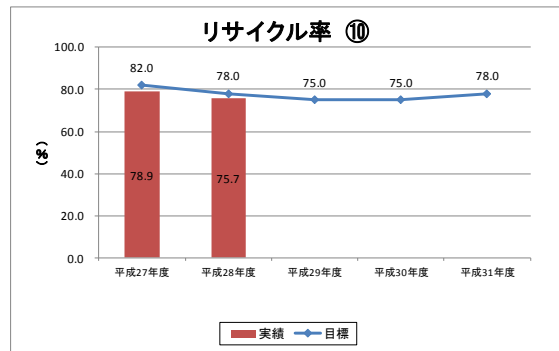
◇圧縮機・破砕機・機械選別ラインをリサイクル率向上に効果的な選別・加工を行い、付加価値を高めた再資源化を行う。(評価○)

次年度⇒大型の破砕機を導入するなど、リサイクル率を低減させる処理困難物の対応が必要である。

◇排出事業者に対し、再資源化に必要な廃棄物の保管方法等の提案を行う。(評価○)次年度⇒継続的に行なう

◇社内において廃棄物の分別及びリサイクル研修の実施。(評価○)次年度⇒継続的に行なう

評価基準(○..良く取り組んでいる △..取り組んでいる ×..全く取り組んでいない)





環境活動計画の取組み結果とその評価、次年度の取組み内容(車両)

◆燃料使用量の削減及び車両・重機等のメンテナンス

◇バイオディーゼル燃料を使用できる車両・重機が年々減っている為、使用量が激減した。

◇収集運搬時は、エコドライブを基本とし急加速・急発進せず、無駄なアイドリングをしない。また、安全及びエコドライブ講習会及び車両+重機類のメンテナンス向上などさまざまな講習会を実施。

(評価○)次年度⇒継続的に行なう

◇計量器による積載量のチェックにより、過積載をなくし燃費向上に努める。

(評価○)次年度⇒継続的に行なう

◇中間処理後の廃棄物及び有価物を圧縮・破碎加工することはもちろん、処理委託先及び有価物の売却先への輸送を 4t車から大型車両に変更することで、燃料使用量を削減する。

(評価○)次年度⇒継続的に行なう

評価基準(○..良く取り組んでいる △..取り組んでいる ×..全く取り組んでいない)

(*注1)

グリーンパートナー(有)百式の BDF 精製工程の中で使用する化学物質については、パートナー企業同士で適切な管理を行う。



環境活動計画の取組み結果とその評価、次年度の取組み内容(事務所)

◆電気・ガス・灯油使用量の削減

- ◇こまめな電源スイッチの入切を徹底する。(評価○)次年度⇒継続的に行なう
- ◇エアコンの設定温度を、室内温度が夏は 28℃とし、冬季のエアコンの使用は原則せず、ヒーター等で代用する。(評価△)
次年度⇒エアコン機器のメンテナンス不足も使用量増加に繋がった為、メンテナンスを徹底する。
- ◇COOL-BIZ 及び WARN-BIZ の推奨。(評価○)次年度⇒継続的に行なう

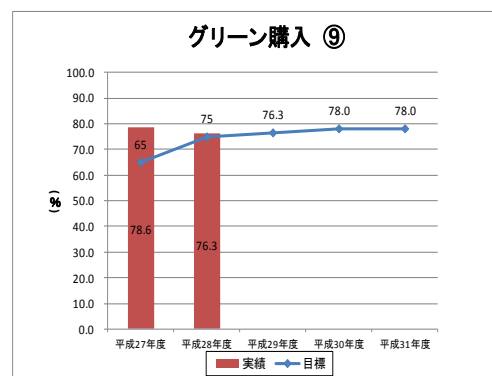
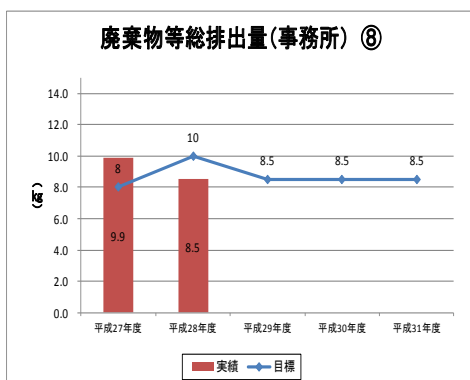
◆廃棄物の削減

- ◇3R(リサイクル・リユース・リデュース)を基本とし可燃物・古紙・ダンボール・ビン缶・ペットと分別を徹底し減量化を進める。(評価○)
次年度⇒1人当たりの排出量を目標にすることで、より目標設定が立てやすくなった。
- ◇容器包装プラスチック類の分別を徹底する。(評価○)次年度⇒継続的に行なう
- ◇紙シュレッダーの分別をする。(評価○)次年度⇒継続的に行なう
- ◇新入社員研修による個人意識の向上を図る。(評価○)
次年度⇒人員の入れ替わりによる意識の低下も原因のひとつと考えられる為、研修等で個々の意識向上に努める

◆備品・事務用品等のグリーン商品購入の推進

- ◇事務用品のグリーン商品購入は、目標数値を設定し、定期的な発注を行い、無駄の無い購入を徹底する。(評価○)
次年度⇒総務担当を置くことで備品の棚卸し等の管理を徹底してムダを無くす。

評価基準(○・・・良く取り組んでいる △・・・取り組んでいる ×・・・全く取り組んでいない)



教育・研修実施計画

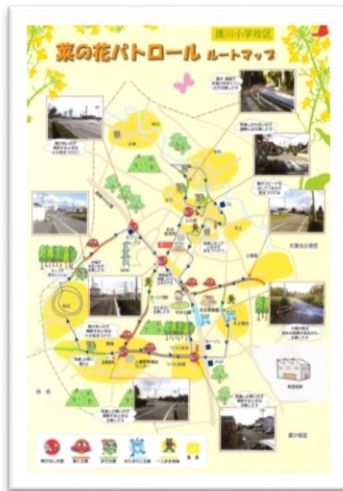


分類	講習会・研究会・勉強会	対象グループ	具体的内容	計画時期	実施日	
1	環境教育関係	一般廃棄物収集運搬グループ 産業廃棄物収集運搬グループ	1.点検の重要ポイント	随時	随時	
			2.故障時の対処方法	(新入社員研修時)	(新入社員研修時)	
			エコドライブ研修会	外部より講師を招いての勉強会	11月	11月19日
			タイヤ点検講習会	安全且つ、環境に配慮したタイヤ選び、タイヤ点検法を学ぶ	6月	6月17日
			重機運転・メンテナンス研修会	環境及び安全運転上の注意事項と安全衛生法について学ぶ	5月	×
			安全運転講習会	外部より講師を招いての勉強会招いての危険運転防止について学ぶ	6月	9月17日
			リスクアセスメント会議	あらゆるリスクを想定し、意見交換をする	毎月	毎月
2	環境上の緊急事態の訓練等関係	消防訓練	緊急事態を想定し、実際に沿った訓練を行う。	10月	11月12日	
		廃油・排水・汚水流出を想定した訓練			10月14日	
3	外部からの苦情等関係	社内勉強会	苦情等が発生した場合、随時 各グループにてその原因と是正を話し合う	随時・毎月	6月17日	
		グループ長会議	各グループ長	毎月	毎月	
4	環境関連法規関係	全グループ	「廃棄物の処理と方法」指導要綱をテキストに用い、勉強会を行う	*一廃		
			1.処分と収集運搬の許可基準	4月・8月・10月	7月16日	
			2.排出事業者責任について	*産廃		
			3.契約書について	6月・10月	6月6日	
			4.県や環境省からの通達事項の確認			
5.リサイクル率向上について						
5	問題の是正処置及び予防処置関係	社内勉強会	問題が発生した場合、随時 各グループにてその原因と是正を話し合う	随時	随時(2.8月実施)	
		グループ長会議	各グループ長			定期的なミーティングにより、気づきを挙げ、解決していく
			各グループからの吸い上げを基に、協議・審議・報告を行う	毎月	毎月第2金曜	



◆バイオディーゼル燃料の普及

- ◇バイオディーゼル燃料を使用した菜の花パトロール車で近隣小学校の子ども達を守る地域防犯パトロールを毎日朝夕2回継続している。**(2008年からの継続活動)**
- ◇地域の各行事等にて廃油の回収ボックスを設置し、集めて協力体制がさらに拡大した。



◆近隣小学校と地域に地域通過の寄贈

近隣小学校に対して、セーフティボランティア及びコミュニティスクールの推進活動に継続参加しています。また、その活動で得た地域通貨「水水」を近隣の護川小学校と杉水地区の補修費用や備品購入費用として寄付させていただきました。





地域環境コミュニケーション2



◆近隣小学校との環境学習を実施しました。(2010年からの継続活動)

今年も、護川小学校4年生の皆さんと一緒に環境学習を行ないました。





◆環境関連法規

該当する廃掃法、水質汚濁防止法、騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法、土壌汚染対策法、消防法に違反及び訴訟はなかった。

◆条例

違反及び訴訟はなかった。

◆要綱

違反及び訴訟はなかった。

◆要求事項(クレーム)

重大なクレーム等はなかった。

※主な改正ポイントは、次の通りです。

法令名		改訂・改正等	ポイント
環境基本法	H28.3月	「土壌基本法に係る環境基準について」項目の追加	塩化ビニル等の項目の追加
グリーン購入法	H28.3月	46品目の判断基準の見直し	毎年度定期的に見直しを行っている
廃棄物処理法	H28.6月	金属等を含む産業廃棄物に係る寒暖基準の制定	水銀等の判断基準の制定
容器包装リサイクル法	H28.4月	容器包装に係る分別収集及び再生商品化の推進に関する施行規則の一部改正	再商品化義務不履行が確認された事業者の公表
その他		運転免許の区分変更	「普通」「中型」の間に「準中型」が新設されたことにより、免許取得時期によって運転可能な車が異なる
		熊本県地震を踏まえ、災害発生時の初動体制の強化を図るため、関係支援団体と災害廃棄物に関する支援協定の締結へ	



代表者による全体評価と見直し

◆環境方針

変更ありません。

◆環境マネジメントシステム

次年度も引き続き、環境管理責任者と委員会メンバーのリーダーシップで更なる全員参加型の効果的な活動を行う。

◆環境目標・活動計画及び取組結果の実績と評価

環境目標の実績と結果及び環境活動計画は、環境活動レポートの記載の通り。
平成 29 年度についても、同様の環境活動計画とします。

◆次年度の見直し

1. 廃プラスチック類などの最終処分までの輸送を 4t 車から大型車両に変更し、軽油の使用量を削減します。
2. 収集運搬車両の新車入替えにより、バイオディーゼル燃料が使用できる車両がだんだんと少なくなっている状況です。これについては、30 年度には、精製事業を終了する予定です。
営業車両など電気自動車などの導入を検討する。
3. 震災の影響により、次年度も安定型品目を中心に産業廃棄物の取扱量の増加が見込めます。また、処理困難物の受入量も増加が見込める為、大型の破砕機導入を検討します。
4. 選別施設の受入量が増加しており、増設または、移設の検討が必要です。

◆その他

1. 上記の課題が解決できるよう、環境委員会の意見も反映した施設づくりをします。また、次年度も関係法令の徹底遵守の為、グループごとに勉強会・研修・訓練を計画し、実施します。
2. 産廃優良認定業者として、社会的責任の重大性を認識し、地球環境への配慮を常に念頭に置きながら、適正処理の徹底、コンプライアンスの確立に向け、より一層努力して参ります。

平成 29 年 10 月 1 日
(株)グリーンロジスティクス
代表取締役 岩崎 浩